

東海市立三ツ池小学校 住 所 東海市加木屋町鎌吉良根9 電話番号 0562-34-6313 児童329 校長名 中山 律子 クラス16学級(内 特支4)		○教育目標 学ぶ(知) 行う(徳) 鍛える(体) ○地域の特徴 三ツ池コミュニティやコミュニティ・スクール、PTAや地域の福祉施設などによる学校教育への支援がとても充実している。
--	--	--

中期目標	今年度の目標	評価方法(アンケート項目)	結果の分析	課題と改善策	学校運営協議会評価 【実施日】令和8年2月13日	次年度の改善策 (誰が何をどうする)
知	○ 児童にとって成長を実感することができ、ともに学び合うことのできる学校づくりを推進する。 ・ 「わかる授業」「楽しい授業」の実践 ・ 「伝える」「聞く」「つながる」活動を取り入れた学び合う授業づくり ・ 授業規律の指導の充実とICT機器の有効活用 ・ 異年齢交流活動(児童会活動、ペア学年活動、各種行事等)の充実	○ 授業に関する児童・保護者・教職員アンケートの以下の項目について、昨年度と本年度の肯定的な回答の結果を比較する。 【児童9～13】 ・ 「楽しさ」「内容の理解」「教員の熱心な指導」「発表」「意見の聞き取り」 【保護者11】 ・ 「わかりやすい授業の実施」 【教職員10】 ・ 「児童を主体とした『わかる授業』『楽しい授業』の実践」 ○ 令和7年度末に実施した「数研式教育・心理検査(CRT)」の結果を分析する。	○ 授業に関する児童・保護者・教職員アンケートの肯定的な回答結果は以下のとおりである。 昨年度 本年度 昨年度 本年度 【児童9】 65% 68% 【保護者11】 88% 89% 【児童10】 84% 84% 【教職員10】 100% 100% 【児童11】 88% 95% 【児童12】 65% 61% 【児童13】 91% 90% 児童の回答結果は、「発表」に関する項目が少し減少しており、発表に対して苦手意識をもつ児童が多い傾向となっている。現職教育において「伝える」「聞く」「つながる」活動を取り入れた学び合う授業づくりをしているものの、自信をもって発表できていないという児童が多いと考えられる。また、保護者や教職員の回答結果は高い水準を維持しており、教職員が本校の現職教育の方向性を理解して取り組んだり、保護者が授業参観等を通して、本校の教育活動に安心できたりした結果であると考ええる。 ○ 「数研式教育・心理検査(CRT)」の結果は、国語・算数共に、すべての学年において、得点率が全国比を超える結果であり、学力は着実に定着していると考ええる。	○ 次年度の現職教育でも「伝える」「聞く」「つながる」活動を積極的に取り入れるなど、子どもたちが自信をもって発表できるような取組を行い、全校体制で児童の「発表」に対する苦手意識を払拭できるようにしていきたい。また、「発表」は「伝える」ための手段の一つであるため、様々な方法で自分の考えを「伝える」ことができるように指導方法を工夫する。 ○ 保護者の授業に対する回答結果も高い水準を維持できているため、次年度も本年度と同様に各学期1回の授業参観を実施したり、学校だよりやブログ等で継続して学校の活動について伝えたりしていくことが必要だと考える。	○ 「わかる」と「楽しい」は違うものではあるが、授業がわかると楽しくなってくるものだと考える。また、授業が楽しいという児童は本来的にそこまで多くはないと思われるため、妥当な数値であると考ええる。 ○ 授業に対して「わかる」や「先生が熱心」と児童が思っているのはとても素晴らしいことであり、教職員が熱心に指導していることが子どもたちにもしっかりと伝わっている結果だと考えられる。	○ 現職教育主任を中心に「伝える」「聞く」「つながる」の活動を取り入れた授業実践に、全職員で取り組み、自信をもって様々な方法で発表できるように指導の工夫をしていく。 ○ 今後もわかりやすい授業を実施していると保護者に理解されるように、学校として年間計画に授業参観を各学期1回程度設定する。
	○ あいさつ・返事など礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接する態度を育てる。 (「あいさつ・返事・もくもくそうじ」,「ルール・マナーは思いやりの第一歩」) ○ スリッパの整頓など、よく考えて行動し、進んでみんなのために働こうとする態度を育てる。 ○ いじめはどの児童にも起こりうるものであり、誰もが被害者にも加害者にもなりうるという認識のもと、いじめは絶対に許さない、見過ごさないという姿勢で指導にあたる。	○ 児童・保護者・教職員アンケートの以下の項目について、昨年度と本年度の肯定的な回答の結果を比較する。 ・ あいさつ・返事に関する項目 【児童2・3】 ・ 「あいさつ」「呼名時の返事」 【保護者5】「家庭内でのあいさつや返事」 【教職員14】 ・ 「あいさつや返事に対する具体的な方策」 ・ スリッパの整頓等に関する項目 【児童4】 ・ 「自分のくつや自分がいたトイレのスリッパ」 【保護者8】「はきものをそろえる習慣」 【教職員15】 ・ 「はきものそろえの具体的な方策」 ・ いじめ防止に関する項目 【児童20～22】 ・ 「他の人への悪口」「友達や下級生に対する言動」「いじめ発見時の言動」 【保護者18】「いじめのない学校づくり」	○ 「あいさつ・返事」「スリッパの整頓等」「いじめ防止」に関する児童・保護者・教職員アンケートの肯定的な回答結果は以下のとおりである。 ・ あいさつ・返事に関する項目 昨年度 本年度 昨年度 本年度 【児童2】 67% 75% 【保護者5】 80% 78% 【児童3】 67% 74% 【教職員14】 95% 100% ・ スリッパの整頓等に関する項目 昨年度 本年度 昨年度 本年度 【児童4】 88% 85% 【保護者8】 42% 49% 【教職員15】 90% 95% ・ いじめ防止に関する項目 昨年度 本年度 昨年度 本年度 【児童20】 73% 77% 【児童22】 75% 75% 【児童21】 93% 91% 【保護者18】 80% 76% 児童の回答結果は、「あいさつ・返事」に関する項目が向上している。これは、学校経営方針における合言葉「あいさつ・返事・もくもくそうじ」を共通認識として指導したことで、児童自身も合言葉の内容を意識することができたからだと考えられる。また、いじめ防止の「他の人への悪口」に関する項目について、数値は向上しているものの、否定的な回答をしている児童が高学年全体の2割程度を占めていることについては、学校全体として危機意識をもたなければならない。	○ 総務委員会による「各国のあいさつ運動」や各学級におけるあいさつ運動の取組により、「あいさつ・返事」に関する項目について、児童の回答結果は向上している。また、児童の「スリッパの整頓」に関する項目も高い水準を維持している。次年度も合言葉を活用して、児童の意識を高めていきたい。 ○ 「いじめ防止」の「他の人への悪口」に関する項目については、高学年の2割程度にあたる児童が否定的に捉えていることは大きな課題である。「東海市いじめ未然防止授業」や道徳の授業を丁寧に行っていくことや、学校生活全体を通して「他の人への悪口」をなくしていくという意識を子どもたちに積極的に伝えていく必要がある。	○ 地域での児童の様子は、昨年度に比べてもあいさつができるようになってきている。朝よりも夕方の方があいさつしてくれる児童は多い。以前は、知らない人に声を掛けられないという風潮があったが、今後もまずは大人からあいさつをしていくことが大切だと考える。 ○ いじめに関して地域で見えて心配するようなことはないが、スマートフォンが普及し子どもたちも所持率が高くなってきているため、心配な点があると考える。	○ あいさつ・返事については、今年度の取組を継続することにより、今年度の結果を維持・向上できるようにする。 ○ 保健生徒指導部を中心に、日頃からの児童へのはきものそろえの声掛けや生活フェスティバルでの取組によって、児童のはきものそろえの習慣付けをしていく。また、家庭でもはきものの整頓が習慣化するようブログで学校の様子を紹介したり、学校だよりで家庭での児童に対する声掛けを依頼したりする。 ○ 保健生徒指導部を中心に、「東海市いじめ未然防止授業」や道徳の授業を充実させたり、日頃から言葉遣いに関しての指導に取り組んだりしていく。また、学年に応じた情報モラル教育も継続していく。
体	○ 日常および行事前後の健康観察を徹底し、事故の防止・感染症・不登校傾向など心身の問題の早期発見と予防に努める。 ○ 児童の発達段階に合った運動の実践を通して、基礎的な身体能力を身に付け、運動の楽しさや喜びを味わわせられるようにする。	○ 保健室のけがの記録、長欠児童記録等から児童の心身の状況について、昨年度の来室記録と比較して評価する。 ○ 本年度の体力テストで体力賞Aを獲得した5・6年児童の結果と昨年度を比較することで、児童の体力がどのような状況にあるか分析をする。	○ 内科的・外科的な保健室来室児童の昨年度と本年度の状況は以下のとおりである。 昨年度 本年度 昨年度 本年度 【内科】 273人 280人 【外科】 782人 773人 ※12月末時点の数値 本年度については、昨年度と比較すると若干の増減はあるものの、内科・外科共に保健室来室は同程度である。外科については、外遊びでのけがが多く、外遊びを楽しむ児童が多いことが影響していると考えられる。内科は微増ではあるが、頭痛や腹痛で欠席する児童も増加傾向にあるため、気持ちの面によるものかどうか今後も注視する必要がある。 ○ 体力テストについては、5・6年生とも、体力賞Aを獲得する児童は減ったものの、学年の約2割の児童が体力賞Aを獲得するなど基礎的な身体能力が身に付いている児童が多い。 昨年度 本年度 昨年度 本年度 【5年】 10人 8人 【6年】 12人 8人	○ 元気に外遊びができる状況はよいことと捉えているが、けがは遊び方の問題とも言える。折に触れて学級活動の時間に、遊び方について児童と確認することで、未然防止につながると考える。また、様々な機会に教職員で情報交換を実施し、学校生活に不安を感じている児童の早期発見に努めていきたい。 ○ 体力テストの結果からは課題は見当たらないが、体力テストや泳力、なわとび運動、なわとび大会など、次年度も様々な視点で児童の身体能力の状況を把握する必要もあると考える。	○ 授業後に三ツ池公園や小学校で遊んでいる姿がよく見られる。小学生が地域でたくさん遊んでいる状況は他にないため、元気に生活していると考ええる。	○ 養護教諭や担任を中心にけがや体調不良の原因を確認しながら、今後も子どもたちの対応に当たっていく。 ○ 登校に不安をもつ児童が顕著になる年度初めや学期始めに家庭と連携し、児童の心の状況の把握と適切な支援をしていく。 ○ すべての児童の体力向上を把握するため、体力テストの結果の平均や、なわとび運動の結果、なわとび大会の結果を比較するなど、検証していく。
	○ 保護者や地域の方に、より信頼される学校づくりを推進する。 ・ 保護者や地域の方の声への迅速かつ誠意ある対応 ・ 学校ホームページやブログ等の積極的かつ定期的な配信 ・ 学校評価等による諸課題の明確化と具体的対策の検討及び実施 ・ コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の推進	○ 保護者・地域住民・教職員アンケートの以下の項目について、昨年度と本年度の肯定的な回答の結果を比較する。 ・ 学校の印象に関する項目 【保護者・地域住民1】「よい学校」 【教職員1】「誇れる学校」 ・ 学校の情報発信に関する項目 【保護者2・3】 ・ 「知りたい情報」「ブログ・通信の閲覧」 【地域住民3・4】 ・ 「学校の様子」「ブログ・通信の閲覧」 【教職員22】 ・ 「ブログ・通信による情報の積極的公開」	○ 学校の「印象」「情報発信」に関する保護者・地域住民・教職員アンケートの肯定的な回答結果は以下のとおりである。 ・ 学校の印象に関する項目 昨年度 本年度 昨年度 本年度 【保護者1】 95% 95% 【教職員1】 100% 100% 【地域住民1】 97% 100% ・ 学校の情報発信に関する項目 昨年度 本年度 昨年度 本年度 【保護者2】 90% 91% 【地域住民3】 92% 89% 【保護者3】 78% 73% 【地域住民4】 45% 61% 【教職員22】 100% 95% 地域住民の回答結果の「ブログ・通信の閲覧」に関する項目が大きく向上している。教頭がコミュニティの会議の場でPRした成果だと考える。	○ 地域住民の回答結果は向上しているものの保護者の回答結果は伸び悩んでいるため、次年度も引き続き、以下の内容に取り組み。 ・ コミュニティの会議や学校運営協議会の場で、日々の学校の様子をブログで発信していることや、ブログ等の閲覧方法を教頭が説明をする。 ・ コミュニティ・スクールによる環境整備ボランティアの活動について日程を工夫したり、活動の様子を積極的に発信したりして、保護者や地域住民が来校しやすくとともに、学校について知ってもらう。	○ 環境整備ボランティアについて参加者の数が少ないため、工夫してもっと参加者数を増加させることができるとよい。 ○ 次年度も今年度の取組を継続して、教頭がコミュニティの会議等の場でブログについてPRしたり、ブログ閲覧方法を説明したりして、地域住民にも、学校の様子を知ってもらう機会をつくる。	
地域連携						